		1					評価項目			**
都道府県	Q1 入院型コロナ 数 (患力・患力・患力・患力・患力・患力・患力・患力・患力・患力・患力・患力・患力・患	Q2 にお野型コロナ 貢献度等 や や の の の の の の の の の の の の の の の の の	7.1 年間に受け入れ 年間に受け入れ が変化	7.2 点数 変数の変 化 度	25 救病院 ター 急車 年間 サ る ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	28 た器	32 地域の関係 との連携 との連携 関	37.1 37.2	40 医療 療従事者 会数の変化 が響該当	41 災害 に関すする 教
対応	方針		(前提) 全国の重篤患者数は令和元年より増えていることから患者自体が少なかったことは原因となりえない。 (対応の考え方)コロナが原因という主張があり、かつ、令和元年の数値より下がっている場合には、ロナの影響を受けたものとして全和元年の実績に基づく点数とする。(コロナの影響を主張していたとしても、令和元年より高い値の場合はコロナの影響を受けたと認められない。)	(対応の考え方) 7.1の対応に準ずる (7.1について令和元年値にした場合は7.2についても同様とする。)	(前提) 全国の救急搬送数は令和元年より増えていることから患者自体が少なかったことは原因となりえない。 (対応の考え方)コロナが原因という主張があり、かつ、令和元年の数値コロナの影響を受けたものとして会和元年の実績に基づく点数とする。 (コロナの影響を主張していたとしても、令和元年より高い値の場合はコロナの影響を受けたと認められない。)	(対応の考え方) ・コロナが原因という主張があった場合には、 令和元年の 実績に基づく点数とする。 (ただし、今和元年に実績がない場合はコロナの影響により 実施できなかったとは認めない。)	(対応の考え方) ・コロナが原因という主張があった場合には、 教セする。 (ただし、令和元年に実績がない場合はコロナの影響により実施できなかったとは認めない。)	実績に基づく点数とする。	あった場合には、 令和元年の 実績に基づく点数とする。 (ただし、令和元年に実績がない場合はコロナの影響によりい場合はい場合は	考え方) 原因という主張が 合には、 会和元年の づく点数とする。 つかの影響により なかったとは認めな
北海道	砂川市立病院 301~400	当院は年年を発生を表して、 一の第2種を集生を医療機関であり、 であり、では対応不可のかした。特に市場をのでは、 を継続にある。 では対応不可のかした。 を継続を、 では対応不可のかした。 を継続を、 では対応不可のかした。 を表熱外来の対応可能と思われる。 を表熱外来の対応可能と思われる。 のカウスターの多様を思われる。 でしか行みターの多様をない医のからででした。 を継続へのまり、変をない医でした。 を継続へのもことできました。 を継続に市を担合して、 を継続に市は、 でしか行が見のみからではた。 でしか行が見のみがですました。 でしか行が見のみがですました。 でしか行が見のみがながあり、 であり、ま念を原植は当ました。 情報システと 因と 医療 基準の であり、 であり、ま念を できました。 であり、まないで、 であり、まないで、 であり、まないで、 であり、まないで、 であり、まないで、 であり、まないで、 であり、まないで、 であり、まないで、 であり、まないで、 であり、まないで、 であり、まないで、 であり、まないでは、 であり、まないで、 であり、まないで、 は当さいのでは、 であり、まないで、 は当さいできました。 は当さいできました。 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、 は、				院内体制整備支援事業を利用し、マニアルの改定、研修、シミュレーションを行う予定であったが、コロナ患者の急増、クラスターの発生、コロナ関連のため、実施することができなかった。次年度行う予定。 (対応方針) 令和元年も実施していなかったか、コロナの影響を受けたと認めるのは困難。		当院では実習の受入を行う体制であったが、消防機関側が感染の危険性を考慮し希望しなかった。 (対応方針) 教急教命士の実習について、新型コロナウイルス感染症まん・ 延の影響により、令和4年に実施できなかった事情を考慮し、新型コロナウイルス感染症免生前の令和元年と同様の評価とする。		
北海道	市立札幌病院 801~900	北海道における新型コロナウイルス感染症重点医療機関であり、3/9時よ陽性患者用病床数70床は、道内における最大の病床数を有する病院となっており、北海道における最終であり、北海道における影楽における基幹病院の位置づけと考える。	当院教命教急センターにて、新型コロナウイルス感染症の重症患者(人工呼吸器およびエクモ等)の受入をするため、許可病床すべてを使用することができず、コロナ患者数や職員感染などで3次教急の受入も厳しい状況下にあった。 (対応方針)令和4年の所管人口10万人あたりの重篤患者数は、新型コロナウイルス感染症発生前の令和元年と比較して増加(令和元年58、令和4年91)しており、コロナの影響を受けたと認めることは困難。	7.1同様、厳しい状況下ではあったが、コロナ患者受入により、 ・が、コロナ患者受入により、 地域へ貢献していたと考える。 (対応方針) 7.1並びの対応とする。						

													評価項目										
都道府県	医療機関名	Q1 入院数 (患者実 数)	Q2 に新型コロナ 貢献度等 や や割や療	影響該当	7.1 年間に受ける 表) (来院時)(別	影響該当	7.2 地 域 賣 献 度	影響該当	25 教	影響該当	28 た 器 死・組織提供の整備等のを使用を表する。 ための を 機能を の を 機能を を 機能を 機能を を 機能を を しょう かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく かいがく	影響該当	地域の関係機関	影響該当	の変化	1 剤管実習おまな 大記の要	点数の変化	37.2 院 粮 実習 受 み 士 状 次 病 病 っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ っ	影響該当	40 医療 教育 への	影響該当	41 災 害に 育 す る 教	備考
北海道	手稲渓仁会病院	601~700	北海道や札幌市からの要請に 常に応え、民間病院でありなが らもフェーズに応じて新型コロナ ウイルス感染症患者を受けら対応 してきた。また、当番病院が機 調なできない。 してきた。また、当を も大幅に増え、数命教急セン ターとして最大限の要請からが 最大で1100件を超えをと少ー長の 最大で1100件を超えと少ケー長の においては、たいかの教命観点をとから しておいては、おいては、おいては、 においては、なの教命観点を しての調整にも寄与している。	O×	新型コロナウイルス感染症患者 は隔離対応が必要なため、救 命教急病床30床の内12床を令 にコロナ対応病床としたその ため、重症患者を受け入れつなっため、重症患者を受け入れつなっため、重症患者を受け入れつなってを にカウナが多くなった。かつくないない。 しまうため、通常教育を受け入れる病 はまた、コロナとは直接関係はなが、所管としていたが、所管と人につ割ったとしてつ自割ったとしている。 が評価となるよとにつたりできた。 がにまた、の所にとしていたがきたといる。 はであり、札幌市の外のかのよりによいた。 はどこもは点となっている。平等 さいが、少している中において、 はが減少している中において、 のが減少している中において、 はどかりの重焦患者数は、令和元年112、令和4年141と増加して おり、新型コロナウイルス感染 をは、近による影響と認めるのは困難。																		
北海道	独立行政法人 国立病院機構 北海道医療セ ンター	401~500	重点医療機関として、患者受入 対応を積極的に行い、また、就 傾れからの要請により、入院待 機ステーションへの医師派遣走 行い、院内のみたらず、札幌を 行ってきました。更に国の要請 にて、財に国立病院機長療施のへの 医師・看護師派遣も行い、全国 的支援も行ってきたところであり ます。	O ×	教命教急センター内にCOVID- 19重症病床を設置したため受け入れが困難になったこと、さらに院内クラスターの発生により教急受け入れを制限した時期が複数回あったことなどの影響が大きかった。 (対応方針)令和4年の所管人口10万人あたりの重篤患者数は、81人と令和元年の67人よりも増加しており、新型コロナウイルス感染症まん延によるな影響と認めるのは困難。	0 ×	教命教急センター内にCOVID- 19重症病床を設置したため受 け入れが困難になったこと、さ らに院内クラスターの発生によ り教急受け入れを制限した時期 が複数回あったことなどの影響 が大きかった。 (対応方針) 7.1の並びで対応する。	O ×	教命教急センター内にCOVID- 19重症病床を設置したため受け入れが困難になったと、さらに院内クラスターの発生により教急受け入れた制限した時期が複数回かた。 (対応方針)令和4年の所管人口10万人あたりの教急搬送受け入れ人員教は、405人全和元年の399人よりも増加しており、新型コロナウイルス感染症まん遅による影響と認めるのは困難。	0	集合型のシミュレーションを計画したが、院内クラスターの発生などにより中止せざるを得なかった。 × (対応方針)令和元年も実施していなかったため、コロナの影響を受けたと認めるのは困難。												
秋田県	秋田大学医学 部附属病院	201~300	秋田県新型コロナウイルス感染症医療体制専門部会委員、秋田県新型コロナウイルス感染症 日東新型コロナウイルス感染症 対策那と本部保健医療対策部 県全体のコロナ診療の体制策定に関症患者管理を行った。また、中等症患者に対する診療にたい中等症患者に対する診療によって、中等症患をでして、変に重症コロナウイルス感情は負った。							0	脳死に関する委員会(脳死判定 委員会、臨床倫委員会、脳死下臓器提供委員会等)は組織されている。 脳死刑定シミュレーションは、内内 体制定が表すれては、 一次の場合を表す。 一次の場合を表する。 一次の場合を表する。 一次のの表する。 一次のの表する。 一次のの表す。 一次のの表す。 一次のの。 一次のの。 一次のの。 一次のの。 一次のの。 一次のの。 一次のの。 一次の。 一次												

													評価項目									
		Q1 入新 院型	Q2 に新 _音 お型	点	7.1 へ た年 来間 ま院 <u></u>		7.2 地	- N	25 救病 夕 救 急院 命	影点	28 た 器脳 た・死	影点	32 地 支域	뫎	37.1 剤管教 点 投実急	뫙	37.2 院救 点 実急	影点	40 医 療	点	41 災 害	
都道府県	医療機関名	数(患者	₩ 度 度 役 ナ	数の変化	表)(別を選集のできた。	数の変化	域質	響該当	数 車のを 事年 を 報年 置置 セン 大 受 す と	数の変化	めの整備生産の発生の	影響該当	なりで との連携 機	響該当	数 入与習教 の 状実お命 変 況習よ士 化 のびの	影響該当	数 習教 の 受命 入士 化 状の	影響該当数の変化	教育者へ	数の変化	に 育関 す る	備考
		実者	や療	10	別数れ		1/2		員入る		等の臓		関		受薬挿		况病	10	o o		教	
茨城県	国立大学法人 筑波大学附属 病院	1001~	呼吸器管理・ECMO管理を要する重症例の応需体制の構築と 重症受入れ機関の定時オンライン会議の取りまとめを実施した。また県入院調整本部の調整難航事例に対するコンサルタント医師として定期的にオンコール担当を行う他、調整本部調整委員としてスタッフを派遣した。	O ×	当院は2020年に高度教命教急センターの認可を受けているが、重篤患者数は2019年666人、2020年612人、2021年832人、2022年867人であり、2020年には減少したが、2021年、2022年は増加している。教命センターとしての評価が2020年以降となるので単純評価は難しいが、実数としては増加している。(対応方針)令和元年の診療重篤患者数は増加しており、新型コロナウイルス感染症まん延による影響と認めることは困難。			0 (コロナ以前に比較すると2割程度の減少となるが、一方で県内外教命教急センターから年間150名程度の重篤患者の急性期転院を受けており、二次教急者を200名以上転送で受けているため、これらを加えるとコロナ前(後で実数は変わらないと思われる。(対応方針)コロナの影響であるという主張と、コロナ以前と比較して2割程度の減少が見られていることから、コロナ前の水準で点数をつけることとする。		2022年脳死下臟器提供1例、心停止下臟器提供(例を実施しており、2020年以降のコロナ福でも総脳死下臟器提供件数5件であり、国内でも有数であり特に影響なく実施している。員会を立ち上げ、積極的な推進を図っている。		集合形態の事例検討会の開催 は困難であったが、定期的な MC検討委員会はオンライン ベースに実施した。		受入れ要請があったものにつ いては通常通り応需している。		受入れ要請があったものにつ いては通常通り応需している。		年3回、1回300人余の多職種に け心肺蘇生講習会を開催してコーナ禍でも通常通り実施した。	ı	年2回の防災訓練を実施し、 2000名を超える消火器取り扱い 訓練、200名を超える本部立ち 上げ・トリアージ訓練を実施し た。	ない項目は満
栃木県	獨協医科大学病院	301~400	新型コロナウイルス感染症の重 点医療機関として、新型コロナ 患者専用の病棟を設置し、受入 体制を確保した。		新型コロナウイルス感染症の重 点医療機関により、教命教急センター病棟の一部病床を重症 な新型コロナ患者受入れ病床と して対応していた。そのため、 新型コロナ患者以外の重篤患者の受入れに支障をきたした可能性がある。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。	0 ×	新型コロナウイルス感染症の重 点医療機関により、教命教急センター病棟の一部病床を重症 な新型コロナ患者受入れ病床と して対応していた。そのため、 新型コロナ患者以外の重篤患 者の受入れに支障をきたした可能性がある。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。		新型コロナウイルス感染症の重点医療機関により、教命教急センター病棟の一部病床を重症な新型コロナ患者受入れ病床として対応としていた。そのため、新型コロナ患者以外の重篤患者の受入れに支障をきたした可能性がある。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。			O ×	当院での開催については減少した。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。	0	新型コロナウイルス感染症感染症 拡大時期において、院内への立入制限等を設けたことによ 以、実習の開催や受入人数について減少した。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。	0	新型コロナウイルス感染症感染拡大時期において、院内への立入制限等を設けたことによい、実習の開催や受入人数について減少した。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。					7.2加点でSIC なれば、対応 不要。 7.2以外は満点 評価。
埼玉県	埼玉医科大学 国際医療セン ター		帰国者・接触者外来、疑い患者 學入協力機関、重点医療機関 として県からの指定を受け、 用病床22床を設け軽症者から 衆急手術を要する重症患者に 至るまで保健所および県の調 整本部を通じ受人を行った。 また、重症患者に対しては、教 命教急センターICU12床中最大 で6床を新型コロナウイルス。 養症患者に使用した。また、配 護師の人員確保のためHCU病 棟を閉鎖し新型コロナウイルス 感染症患者の対応を行った。			0 ×	帰国者・接触者外来、疑い患者 受入協力機関、重点医療機関 として県からの指定を受け。 民族機関、重点医療機関 として県からの指定を受け。 服急手術を要する重症患者に 緊急手術を要する重症患者に を を本部を通應さで受入を行った。 を な急センターICU12床中最大で 6床を新型コロナウイルス感看 で 健保のためHCU病棟 を 門鎖し新型コロナウイルス感 を 開鎖し新型コロナウイルス感 を 開鎖し新型コロナウイルス感 を 開鎖し新型コロナウイルス感 後症患者に対した。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。	,														7.2が加点であ れば、対応不 要。
千葉県	東京慈惠会医科大学附属柏病院	401~500	東葛北部の三次教急医療機関 として、新型コロナウイルス感 染症の患者を含む重速者の 受入に特化して対応を行った。 また、近隣医療機関にでクライン ターが発生し、救急受入が不可 能になった際は、当院が率先し て二次救急含む患者の受入を 行った。	O ×	クラスター発生による病棟や集中治療室の一時クローズなどもあり、搬送依頼があってもべいが確保さないために断らざるを得ないを得があった。また。ヨーナ疑い患者はマンパワー不足によりお断りしたケースもあった。 (対応方針)令和4年の所管人口10万人あたりの重篤患者数は、144人と前の今和元年の96人よりも前加しており、新型コロナウイルス感染症発生前の今和元年の96人よりも強いにより、新型コロナウイルス感染症を発生によ影響と認めることは困難。	O ×	新型コロナウイルス感染症における各医療機関でのクラスター 発生の影響で、応需不能になった他地域から患者搬送依頼が 相次ぎ、重症患者は受け入れ ざるを得なかった。そのため、 当地域の患者受入にも多大な 支障が生じた。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。		新型コロナウイルス感染症が疑わる患者を対応する際、個人防護具を着用して実施するため、多大なマンパワーが必要となる。また、酸性確認までに時間を要する初感ペッパの回転効率も悪化したことも伴い、搬送人員が減少した。 (対応方針)コロナウイルス感染症発生前の令和元年の761人よりも減少していることから、令和元年と同様の点数とする。(ただし、点数の変化はない。)													

													評価項目									
都道府県	医療機関名	Q1 入院数(患者実数)	Q2 における役割 貢献度等 や療	影響該当	7.1 (来院時) た重篤患者数 た可能患者数	影響該当	7.2 地域 貢献 度	影響該当	25 救 病院の 年間 受入 教命教急セン	影響該当	28 ための整備等の整備等の では ための整備等の を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	影響該当	32 地域の との連携 機関	影響該当	37.1 剤管教 投字記教 の 変 化 の 変 化	影響該当	37.2 院教 宗急教 の 交 化 状の 沢病	影響該当	40 医療従 教育 でと	響該	41 災害 に の 育関 で 化 名 教	備考
東京都	日本大学病院	201~300	干代田区と連携をとり、千代田 区民の自宅や周囲の医療機関 で発生した中等症の新型コロナウイルス感染症患者に対して診 療を行った。また、教命センター として重症患者を受け入れた。			O ×	新型コロナ患者受け入れのため、コロナ病棟を作り対応した。 そのため、一般救急患者を受ける受ける受け血が減少した。また、依頼件数がコロナ流行以前は、約700件台であったのが、約4122件に急増したことにより応需率が低下した。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。					0 (コロナ流行期では、大人数が まっての会合は禁止していたため、勉強会などが開催できなかった。 (対応方針) 地域の関係機関との勉強会等 について、新型コロナウイルス 感染症まん延できる。 和4年に実施である。 を発慮し、新型コロナウイルス 感染症発症し、新型コロナウイルス 感染症発生前の令和元年充実 段階評価と同じ評価とする。					0 0	コロナ流行期では、大人数が集まっての会合は禁止していたため、勉強会などが開催できなかった。また、流行が治った時期においても感染症対策のため、対外的にも感染症対策のため、対外的に数す。コースは控えていた。 (対応方針) (対応方針) (技成である。 (対応方針) (技術できなかった事情を考慮し、新型コロナウイルス感染症を発生前の令和元年充実段階評価と同じ評価とする。	5		
東京都	東京大学医学部附属病院	. 501~600	東京都からの受持な、	O ×	ECMOや人工呼吸器を必要とする重症新型コロナ感染症患者を多数受け入れる体制を強化したため(2022.1-2022.12 ECMO 接着数2人、延べ28人、平均期間14.0日ノノ人工呼吸器装期間12.9日)、救命センター(にUの病床を8床から6床に減少せざとしてにUの病が満床である期間が長くなり、その間の重症教急得なかった。(対応方針)令和4年の所管人口10万人あたりの重篤声者受け入れを制制を登りの重篤声者を受け入れるり、新型コロナウイルスを発生前のや和元年の125人よりも増加しており、新型コロナウイルス感染症まん延による影響と認めることは困難。																	
東京都	昭和大学病院	601~700	城南地区における東京都新型 コロナウイルス感染症入院重点 医療機関として、コロナ罹患患 者疑い患者の受入れを積極的 に行った。											0	教命教急センターにおいて患者 や職員のクラスターなどが発生 したことを踏まえ、新型コロナ 発症のさらなる伝播の予防と、 教急受け入れる差継続する目的 で、学内外全での研修を中止といたしました。つうした教策により、結果として、教急車職送人 員数は例年8000人を維持し ており、コロナ禍以前(平成30 年)より多くの搬送の受入を行う ことができました。 (対応方針) 教急教命士の実習について、 新型コサウイルス感染症まん 延の影響により、令和名主実 施できなかった事情を考慮に 新型コロナウイルス感染症発生 前の令和元年充実段階評価と 同じ評価とする。		教命教急センターにおいて患者や職員のクラスターなどが発生したことを踏まえ、新型コロナ感染症のさらなる伝播の予防と、教急受け入れを継続する目的で、学内外全での引た対策により、結果として、教急車機送人員教は例48,000人合を維持しており、コロナ禍以前(平成30年)より多への搬送の受入を行うことができました。 (対応方針)教急教命士の実習について、新型コロナウイルス感染症まん達の影響により、令和4年に実施できなかった事情を考慮と、新型コロナウイルス感染症発生前の令和元年充実段階評価と同じ評価とする。					

												評価項目									
都道府県	医療機関名	Q1 Q2 Q2 (これ	影響該当	7.1 (来院時)(来院時)(別 表))	影響該当	7.2 地 域 貢献 度	影響該当	25 教命教急車 が 教命教急 車 搬送人員	影響該当	28 ための整・組織提供の整提供の を構等の	影響該当	32 地域の関係機関	影響該当	37.1 剤管 教数 入り 大実習 が変 化 の で の で の の の の の の の の の の の の の	影響該当	37.2 院教 実習教 の 受 入士 大 大 の 大 大 大 の 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	影響該当	40 医療従事者への	影響該当	41 災害に関する教	備考
東京都	東邦大学医療センター大森病院	当院は特定機能病院であるとともに大田区で唯一の三次教急医療を行っている。そのことを踏まえて、悪性疾患診療おおよび心疾患、脳卒中いつつ新撃を行って、動脈疾却ロナ感染症に対する診療を行った。新型ロナ感染症に対して、中等海空と作(般療室)を確保して診療を行った。新型ロナの表面を持定集中治療室・症に、三次教急による新型ロケの判の主患者の呼吸不生悪化例を受け入れて人工呼吸が急患者の呼吸が必要により診療を行った。	0 0	新型コロナ感染症に対する病 床を確保しつつ、予定手術の術 後に全身管理を要する患者の 集中治療を行っており、病床 マンパワーは常に足りない状況 毒等により、効率良い診疾かかった。また、PPE着脱やが 毒等により、効率良い診疾かかった。これらの事由により三次教 受けたと言う。 これらの事由により三次教 受けたと言う。 であった。また、PDE着脱やがた。 これらの事由により三次教 を受けたと言う。 (対応方針) 今和4年の所管人口10万人あ たりの重篤患者を多く得ないと考 あり、新型コロナウイルスの感染症を必ず 症免生前の今和元年の274人 新 型コロナウイルス感染症まん 近発生前の今和元年と同じ評価 を発生前の今和元年と同じ評価 発生前の令和元年と同じ評価 を対していることがら、発生 を発生前の令和元年と言い。 発生前の令和元年と同じ評価	0 ×	新型コロナ感染症に対する病 床を確保しつつ、予定手術の物 後に全身管理を要する患者の 集中治療を行ったが、また、PPE着脱や消 毒等により、効率良い診療で ベッドコントロールが行えなかっ た。これらの事由により三次教急 受けたと言わざるを得ないと考 えられる。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。															
東京都	都立広尾病院	都からの要請を受け、新型コロナウイルス感染症患者受入れのための病床を確保するととに、発熱外来を放置し重症中等症のコロナル患者の受入のほか、軽症の患者で基礎疾患の重い患者や、妊婦、小児、精神疾患のある患者の受入れを実施している。また、周辺病院で受入れられなかったコロナ患者の受入れを継続的に行っている。	0 0	コロナ患者に対応するためにスタッフの配置の変更などを行い、教急外来を停止せざるを得ない状況であった。教急外来を停止していたため受人件数が、少ちななり、一方で教養請件数自体が急増していたことから応需率が減少した。 (対応方針) を144年の所管人口10万人あたりの重篤患者数は、86人であり、新型コロナウイルス感染症まん延のサウイルスで発症まん延のサウイルス感染症まん延のサウイルス感染症まん延のまり、新型コウナウイルス感染症まん延のあり、新型コウナウイルス感染症まん延のあり、新型コウナウイルス感染症まん延のある。			0 0	コロナ患者に対応するためにス タップの配置の変更などを行 い、救急外来を停止せざるを得 ない状況であった。救急外来を 停止していたため受入件数が 少なくなり、増していたことから 応需率が減少した。 (対応方針) を和4年の所管人口10万人あ たりの救急撤送新型コロナウイ ルス感染症を主前の令和こ年 の1044人よりも減少しているこ を始まると、新型コロナウイルス感染症を を発表されるこ を発表されるこ を発表されるこ を発表されるこ を発表されるこ を発表されるこ を発表されるこ を発表されるこ を発表されるこ を発表されるこ を発表されるこ を発表されるこ を発表されるこ を発表されるこ を発表されるこ を発表されるこ を発表を手前の令和元年と 同じ評価とする。	0 (コロナ患者に対応するためにスタッフの配置の変更などを行っている中で参集型の委員会や趣味レーションを開催することが困難であった。 (対応方針) 脳死判定のシミュレーション等について、新型コロナウイルス感染症まん延の影響により、令情を考慮し、新型コロナウイルス感染症発生前の令和元年充実段階評価と同じ評価とする。											
東京都	東京女子医科大学病院	発熱外来設置、地域のワクチン 接種会場、酸素ステーションへ 701~800 の医療者派遣、感染症者の外 来、入院加療(中等症、重症 者)を実施							0 (コロナ感染拡大下で参集型の シミュレーションの開催ならびに 医療従事者の確保が困難で あった。 (対応方針) 〇 脳死判定のシミュレーション等 について、新型コロナウイルス 感染症を表れ延の影響により、令 和4年に実施できなかった事情 を考慮し、新型コロナウイルス 感染症発生前の令和元年充実 段階評価と同じ評価とする。											

		0.1			7.1		70		05		00		評価項目		0.7			07.0		40		44	
都道府県	医療機関名	Q1 入院数(患者実 数)	に新 _害 お型	影響該当	7.1 (来院時)(来院時)(別	影響該当	7.2 地 域 貢 献度	影響該当	25 教病 病 タ タ 教 命 教 命 教 命 教 命 教 命 教 徳 世 を 設置 す る 人 員 入 員 入 員 入 員 入 員 へ の 本 間 受 み の 本 間 受 み の 本 間 受 み の か れ の か れ の か れ の か れ の か れ か れ か れ か	影響該当	28 器・組 を 機 発 備 等 の 整 備 等 の を 備 等	影響該当	32 地域の関係機関	影響該当	の変数	日 利 対 対 大 大 の で 来 の で 来 の で 来 の で 来 の で 来 の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で が の で が の で の で の で の で の で の で の で の で の の の の の の の の の の の の の	影響該当	37.2 院教 実習教命 受入 状の 況病	影響該当	40 医療 後 教育 有 の	影響該当	変 す	備考
東京都	東京医科大学病院	1001~	EICU(教命教急センターICU)に 重症コロナ病床・一般病床に中 等症コロナ病床を確保し、都 等症コロナ病床を確保し、都 治施設への医師派遣、酸素・医 医師派遣、等医療支援型施設の ククチン降音が高き、東京ドーム の医師派遣、東京ドーム でクチントをが来の運用開始し東 京都または地域における役割 や貢献を果たしている。		EICUIC重症コロナ病床を確保したため、非コロナ重無患者を物理的に多く入院されられない状況になっていたが、地域努力を行い、受入数は前年の1,193入から1,293人と増加たよ。しかし、当院の所管人口が70万人から1,07万4円(増えているの所管人口が70万人大の大師を引き、10万人の大師が大切となっている。 (対応方針)令和4年の所管人口10万人表たりの重集患者数が173人と増えない状況となっている。 (対応方針)令和3年の所管人口10万人表たりの重集患者数が173人と増えない状況となっている。 (対応方針)令和4年の所管人口10万人表たりの重集患者数は、173人を新型コロナウイルス感染症を発生前のや和元年の259人よりも可力イルス感染症を発生する。	O×	EICUIに重症コロナ病床を確保したため、非コロナ重篤患者を物理的に多く入院されられない状況になっていたが、地域のに重篤患者の受け入れ努力を行い、受入数はコロナによる病床確保指示等がなければ、更に多くなっていたはずであり、より地域貢献できていたと考える。 (対応方針)																
東京都	帝京大学医学部附属病院	701~800	新型コロナウイルス感染症入院 重点医療機関として、東京都に 重症患者病床を11床、内教命 救急センターG床を届け出、疑 い患者受入協力医療機関とし て、救命教急センター25年 け出ており、他医療機関からの 転院搬送依頼や、3次救急に該 当する重症患者を多数受け入		・EICU16床のうち8床をCOVID-19陽性と疑似症受け入れ病床として確保しているため・患者受入の際にPCR検査の結果が出るまでそれぞれの専用病床に入以前は初療時に2~3名の患者を同じの診療(検査)スペースが、現在は1名ずつしか診察後の診療(検査)スペースの消毒他に時間を要するため・診察後の診療(検査)スペースの消毒他に時間を要するため・診察後の診療(検査)スペースができず初療に時間を要するため・診察後の診療(検査)スペースの消毒性に時間を要するため・診察後の診療(検査)スペースの消毒性に時間を要するため・計算型の計算が表しているとも減少しているとを発生発生・前の令和元年の220人よりも減少しているとを発生表も対型の野型コロナウイルス感染症を発生前の令和元年と同じ評価とする。	O ×	・EICU16床のうち6床をCOVID-19陽性と疑似症受け入れ病床として確保しているため・患者受入の際にPCR検査の結果が出るまできないため・コロナ福以前は対療時に2~3~名の患者を同時に診察していたが、現在は1名ずつしか診察をの診療(検査)スペースの消毒他に時間を要するため(対応方針)満点のため点数の変化なし。	0 ×	・EICU16床のうち6床をCOVID-19陽性と疑似症受け入れ病床として確保しているため・患者受入の際にPCR検査の結果が出るまでそれぞれの専用病床に入室できないため・コロナ禍以前は初療時に2~3名の患者を同時に診察していなが、現在は1名ずつよの消毒他に時間を要するため・診察後の診療(検査)スペースの消毒他に時間を要するため(対応方針)満点のため点数の変化なし。														
東京都	日本大学医学部附属板橋病院	901~ 1000	東京都と協議のうえ、通常診療やと並行して、発熱外来の設確に特別を指して、 通常診断ででした。	O ×	元来22床運用であったが、コロナ病床確保及び感染症対応をする人員確保のため10~16床運用とした。また、集中治療終了後の患者の出口間という。 を選用とした。また、集中治療終失れがあるからない、集中的場合をは、一般的では、一般的では、一般的では、大がみつからない、特別の患者の応需ができない状況であった。 (対応方針)令令和4年の所管人口10万人あたりの重点患者数は、191余発をからない。 参和4年の所管人口10万人を、1916年前の令和元年の194人とり、新型コナウイルス感染症者られ、近れ、当該は野価項目については、新型コナウイルス感染症発生前の令和元年と同じ評価とする。(ただし、点数は変化しない。)			0 0	コロナ病床を最大で60床確保 した。その際、ゾーニング・医療 従事者を確保するために一般 病棟の縮小が生じ新規患者の 応需ができない状況であった。 また、感染拡大時には、病棟関 動も相次だ・悪いた。発熱を伴う であるが、大が、一般熱を伴う をない状況が続いた。発熱を伴う をない状況が続いた。発熱を伴う をない状況が続いた。 の変きがなく受け入れができない状況であった。 (対応方針) 令和4年の所管人口10万人あ たりの教急機器送型コロホテンで から、新型コロケウイルス 感染症免生前の令れ不ること から、新型コロウイル ス感染症免生前の令れてこと から、新型コロナウイルス 感染症免生前の令和元年と同 しました。														

		Q1	Q2		7.1	_	7.2		25		28		評価項			37.1		37.2		40		41	
都道府県	医療機関名	新型コロナ患者 数)	に新 _責 お型	影響該当	(来院時)(別を表している。 表している。 (別の) (別の) (別の) (別の) (別の) (別の) (別の) (別の)	影響該当	地域貢献度	影響該当	3 救命教急車搬送人員 教命教急セン 教命教急セン	点数の変化	ため 組織提供の整備等	影響該当		地域の関係機関	影響該当	利 角 を を を を を を を を を を を を を	影響該当	点 原 東 震 数 の の の の を 大 の の を 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	影響該当	医 療 が 従	影響該当	災 害 に	備考
東京都	都立墨東病院	1001~	第一種感染症指定医療機関として感染症専用病床40床を有しており、感染拡大に伴う都からの要請に基づき、最大で140床のコロナ患者への対応を行ってきた。また、墨田保健所や近当院医療機関とも連携を行いに受け入れる体制を確保するとともに、地域医療への貢献を行ってきた。。																	当院では毎年ICLS講習会を年 3回程度実施しており、院内外 の職員が受講している。しか し、令和4年2月の講習会が新 型コロナウイルス感染金の影響 により中止となり、残る2回は感 染対策及び受講機会の確保受 議となったことにより、「対外的 な教育コースの提供」の要件を 満たさず、評価点1点となって いる。 (対応方針) 医療従事者への協力につい て、新型コロナウイルス感染症 まん延の影響により、令和4年 に実施できなかった事情を考慮 により駆型の令和元年充実段階評 価と同じ評価とする。			
東京都	公立昭和病院		当院は、医療圏域内で唯一の 教命教急と変換関、入院重等企 、保証を 、保証を 、保証を 、保証を 、保証を 、保証を 、保証を 、保証を			0 ×	当院は、圏域内唯一の教命教 急センターであるため、三次教 息患者は、「お断りをしない」を 原則に積極的な受け入れを 行った。ただし、新型コロナ感染 企の第6、7、8 波による風発的 な患者増の期間については、三 次教急搬送要請が非常も多 し、圏域かからの依頼と し、圏域かからの依頼と した時期もあった。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。								0	当院としては、令和4年度においても院内感染対策の最大限のリスク低減のため、病院として看護学生など必要不可欠な病院実習以外の実習生の受け入を中止している。令和5年度から、教命教急士の実習生の受入を再開する予定である。 (対応方針)教急教命士の実習について、新型コロナウイルス感染症まん延の影響により、令和4年に実施できなかった事情を考慮し、新型コロナウイルス感染症発生前の令和元年充実段階評価と同じ評価とする。	0	当院としては、令和4年度においても院内感染対策の最大限のリスク低減のため、病院として看護学生など必要不可欠な病院実習以外の実習生の受け入れを中止している。令和5年度から、救命教急士の実習生の受入を再開する予定である。 (対広方針)教急教命士の実習について、新型コーナウイルス感染症まん。 延近できなかった事情を考定を発生前の令和元年充実段階評価と同じ評価とする。					
神奈川県	横浜市立市民 病院		第一種感染症指定医療機関として、神奈川県の病床確保フェーズに応じて積極的な病床確保を行った。そのため、地域中核の急性期病院にあっても、ピーク時には72床の病床を確保することで、横浜市内で最多の患者の受入れを行った。コロナと急性期医療を両立するために尽力した。																O ×	8月に地域の医療機関向けの心肺蘇生研修を実施するよう計画していたが、新型コロナウイルス感染症するため、開催を延加大を防止するため、開催を延加大を防止するため、開催を延期せざるを得なかった。またその後、12月に再度同一新型コナウイルス第8波の影響により、計画を中止した。 (対応方針)教急教命士の実習について、新型コロナウイルス感染症まん類型コロナウイルス感染症を強に変し、新型コロナウイルス感染症の発生により、令和4年に実施できなかった事情を発症し、新型コロナウイルス感染症発生前の令和元年充実段階評価と同じ評価とする。(ただし、点数の変化はない。)			
神奈川県	海老名総合病 院	1000	神奈川モデル重点医療機関として、県庁、保健所、救急隊、周辺医療機関等からの新型コロナウイルス感染症患者の受及要請に対し、県央地域に加え、県内外広域から受け入れた結果、2022年は発熱外来、救急外来にて13439人、入院914人の受け入れに対方した。また、コロナ診療と並行して一般救急の受け入れも継続し、救急搬送人員数は前年の7048人から8818人に増加。地域医療に貢献した。									0	教命を会画 教命をでいる。 対応のでで、見いでは、 10月、意、は、 10月、意、は、 10月、後のでは、 10月、では、 10日、										

										,			評価項目									Į.
都道府県	医療機関名	Q1 入院数(患者実 数)	Q2 にお型コロナ 貢献度等 や	影響該当	7.1 (来院時) (来院時) (別	影響該当	7.2 地 域 資 献 度	影響該当	25 教病 病 タ タ 急車 水 命 教	影響該当	28 器・組織 を 機提供の を 備等	影響該当	32 地域の の 連携 機関	影響該当	37.1 剤管教 投写習念 入状実習の で受薬 が乗びび薬挿	影響該当	37.2 院教 裏習教 の 入士 状の病	影響該当化	40 医療 教育 者 へ の	改业	41 災害 に関 すす る 教	備考
石川県	公立能登総合 病院	201~300	新型コロナウイルス感染症に残る地域住民の予防と治療に邁進しました。予防に係る毎日のワクチン接種では医師が全員参加で予診担当とアナフラキシー担当の2人セットで、住民の不安解消等総合的な相談的を担いました。また、一方で診療において、病院職員全員のした。 が一ンを確保するため他の報との分離を測りながら、時間を問わず最善を尽くしました。		438人				2, 645台													9項目はほぼ 満たしており、 り評価になることも承知している。 を情を伝えたいため提出した。 (対応方針) ご意見として承ります。
長野県	長野県厚生農業協同組合連 舎会 佐久総 合病院佐久医 療センター	201~300	県から入院病床確保の要請あ り15床を確保して患者受入を 行った。重症患者、休日夜間教 急、妊婦、透析、小児など地域 の病院で受入できない患者を 受入した。	:						0 ×	臓器移植委員会がある。令和4年は多職種が参集してのシミュレーションは行えなかった。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。							0 0	救急対応教育委員会があり、 多職種参集による院内急変ス タッフコースを企画した。 (対応方針) 医療従事者への教育ついて、 新型コナウイルス感染症まれ 延の影響により、令和4年に実 施できなかった事情を考慮し、 新型コナウイルス感染症発生 前の令和元年充実段階評価と 同じ評価とする。	ŧ l	災害対策委員会にて参集した 訓練は難しいと判断し、BCP研 修会を院内イントラネット上で 行った。また令和4年10月23日 県総合防災訓練に参加した。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。	
静岡県	中東遠総合医療センター	301~400	新型コロナウイルス感染症発生当初のダイヤモンドプリンセス 号の患者受入から、コロナ専用 病床の設置や、保健所に代わり自宅療養者への電話での健康チェック、軽症者の療養ホケルの運営、構成市(掛川市・袋井市)と共同のワクチン接種、感染の認定看護師による施設への訪問指導等、様々な業務を行った。															0 0	関連消防機関とJPTECなどのシミュレーションコースを計画していたが、開催予定目にクラスターが発生し、地域においても新型コロナウイルスが大流行したため、やむなく中止した。 (対応方針) (対応方針) (対応方針) (対応方針) (対応方針) (対応方針) (対応方針) (対応方針) (対応が対した。			
愛知県	独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター	701~000	当院は、愛知県より重点医療様関に指定され、中等症Ⅱ(酸素 関に指定され、中等症Ⅲ(酸素 投与が必要な者等)以上の患 者を積極的に受け入れてきまし た。県民の生命を守る上で必要 な医療体制を確保し続けてるこ とで、地域に貢献してきました。								教命教命教急センターの看護 師等が新型コロナウイルス感感 症専用病棟の応援や院内クラ スター発生などで、業務多代に なり、年1回シュミレーションを 行うことが出来なかった。 (対応方針) 脳死判定のシミュレーション等 について、新型コロナウイルス 感染症まん延の影響により、令 を考慮し、新型コロナウイルス 感染症発生前の令和元年充実 段階評価と同じ評価とする。	0	コロナ前は、毎年2回プレホスと タル教命教急合同カンファレン スを開催し、当院の教象也 ンターが中心となり消防とカン ファレンスを行ってきたが、コリナで、双方ともに多作いなり、 護の上カンファレンスを見送っ (対応方針) 地域の関係機関との勉強会等 について、新型コロナウイルス 感染症まら延できない。事情 を考慮し、新型コロナウイルス 感染症発症を発症を表できない。事情 を考慮し、新型コロナウイルス 感染症発症を必ずる。	20								
愛知県	日本赤十字社 愛知医療セン ター名古屋第 一病院	101~200	コロナ輪番等や行政からの受 該要請、近医紹介の患者が搬 送される事例が多くその都度、 職員が(土日祝日含む)調整を とつている	0 0	コロナ感染症はスタッフにも影響し、救急担当看護師も病検菌 置についたり、救急搬送の三3 救急受入制限を余儀なくされた 期間があった。 (対応方針)令和4年の所管人口10万人あたりの重篤患者数は、245人で、新型コロナウイルス感染症がら、新型コウナウイルス感染症がら、新型コロナウイルス感染症がら、新型コロナウイルス感染症を発症がある。	2 2 2 3				0 ×	コロナ禍であったので今年の5 月あたりから実施予定 (対応方針) 令和元年も実施していなかった ため、コロナの影響を受けたと 認めるのは困難。											

													評価項目										
都道府県	医療機関名	Q1 入院数 (患者実		影響該当	7.1 年間 (来院時) (来院時) (別 (別	影響該当	7.2 地域 資献 度	影響該当	25 教病病 病 身 を設置 する 製命 教 急 セン 人員	影響該当	28 器・ 器・ 器・ 器・ のを 備等の を 備等の	影響該当	32 地域の の 連携 関	影響該当	点数	37.1 剤管教 投実習お 大実習の で変 の で 乗 が 現 の の で 乗 で が に の で で が に の で が に の で が に の で の で が に の の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の の の で の の の の の の の の の の の の の	影響該当	37.2 院 粮 数 の の 受 入 士 大 状 の 、 次 の 、 次 り 、 大 り 、 大 り 、 大 り 、 大 り 、 大 り 、 大 り 、 大 り 、 大 り 、 大 り 、 大 り 、 大 り 、 大 り 、 た り 、 た り 、 に り 、 に り 、 に り 、 に り 、 に り 、 に り 、 に り 、 に り 、 に り 、 に り 、 に り 、 に り 、 に り 、 に り 、 に り こ と り と り こ と り と り こ と り と り と り と り	影響該当	40 底数の変化 化 の の で	点数の変化	41 災害 に関する 教	備考
大阪府	大阪大学医学 部附属病院	301~400	大阪コロナ重症センターへ医師を常時1名派遣してコロナ患者の重症治療を担当し、救命センター専属MSWも適宜派遣してベッドコントロールを支援した。大阪府ワクナ接種後の割反応に対する専門医療体制において、支援医療機関が役割では、変替を機関が使いては、できる限り断らず、特に重節のよいでは、できる限り断らず、単の機能を関する重症例64例(ECMの装着9例を含む)を受け入れ、コロナ禍において教命教力と関係といては、できる限り断らず、関係の表着9例を含む)を受け入れ、コロナ禍において教命教念センターの役割を最大限果たした。	O ×	新型コロナで増加した病院選定が困難な症例(57例)を医療問に関わらず受け入れた。また、小児症例についても病院選定 い見難になりがであるため、当院では全例(107例)断らずに受け入れた。重症救急患者の病前述のような患者(計164例)は重篤とは限らないため、年間の受け入れた宣薫患者数が減少したと考えられた。 (対応方針)令和4年の所管人口10万人あたりの重篤患者数は、167人と、新型コロナウイルス感染症発生前の令和元年の139人よりも増加しており、新型コロナウイルス感染症発生がしており、新型コロナウイルス感染症まん延による影響と認めるのは困難。		評価については現時点で不明であるが、もし下がっているとするなら、7.1と25の理由によると考えられる。一方で、過枚命教を記センターは、コロナ制において大阪府からの要請に従ばい、重症教息患者の受け入れを継続し、所管地域である豊能二次医療圏の救急医療に貢献した。 (対応方針)満点のため点数の変化なし。	0 ×	来院時のウイルス抗原検査、 結果判明までの待ち時間など により、患者の初療室の滞在時間が長くなった。初療室内での 並列診療が出来なくなった。個 した。家族の濃厚接触や感染に より看護師が相対的に不足し た。これらの要因により受入 教急車搬送人員が少なくなっ た。(対応方針) 令和4年の所管人口10万人あ たりの教念搬送券世前の令和元年 の252人よりも増加しており、新 型コロナウイルス感染症発生前の令和元年 の252人よりも増加しており、新 型コロナウイルス感染症をまる延 による影響と認めるのは困難。														
大阪府	大大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	401~500	教命教急センター開設以前から、大阪府新型コロサウイルス 感染症重点医療機関としてと最 大変原の病床は悪者専用疾床として12年を連合で発生を して12年を連合を のみならずを療種的に与ってきた。大阪府三島教命教急センター 対応の教命教急を担かった。 対応の教命教急を担かった。 対応の教命教急をした。 大変に対応が、 対応を がは、 はでは、 はいている。 をはいるが、 はいている。 をはいるが、 はいなが、 はいるが、 はいなが、 はいなが、 はいなが、 はいなが、 はいなが、 はいなが、 はいなが、 はいなが、 はいなが、 はいなが、 はいなが、 はい	O ×	新型コロナウイルスの影響により、後送病院への助き者搬送が、困難な状況によなり、一時間にが一点の動物では、対していることを表していることを表していることを表している。というでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	O ×	新型コロナウイルス感染症の影響については、7.1及び25に配動のとおりである。こちらも半年の期間での受入重症患者数によりを存在であることを考慮願い(対応方針)7.1の並びで対応する。	0 ×	「7.1年間に受入れた重篤患者 数の理由・背景と同様、二次 教急においても同様の状況で あった。 (対応方針) 7.1の並びで対応する。										0	院内医師講習として定期的にICLSコースを開催してにある。教外的には、大阪府三島教命院に移籍)と当院医師により日本災急センター医師明在は当院に移籍)と当院医師により目本災害医学会のMCLS(Mass Casualty Life Support)コースを開講していたが(世話人は当院の医師、新型コナウイルスへの影響により長らく開催できていた。(対応方針)医療従事者への教育のこれで、新型コリナウイルスを和4年によ新型コナウイルスを発症を言葉にできなかった事情を考慮し、新型コナウイルスとから加点することとする。			

													評価項目										
		Q1 入新	Q2 に新		7.1 ・ 年 ・ た en	Π.	7.2		25 救病タ 救病タ		28 た器脳	Π.	32 地		37.1		T.T	37.2 院教		医	Π.	41 災	
都道府県	医療機関名	数) 数) 数)	貢献度等 ではなり、 では、 でもできます。 では、 できます。 できます。 できます。 できまする。 できまする。 できまする。 できまする。 できまする。 できまする。 できまする。 できまする。 できまする。 できまする。 できままする。 できままする。 できままする。 できままする。 できままする。 できままする。 できままする。 できままする。 できままする。 できままする。 できままする。 できままする。 できままする。 できままする。 できままする。 できまままままままま。 できまままままま。 できままままままま。 できままままままままま。 できままままままままま。 できまままままままま。 できまままままままままま	影響該当	(来院時) (別 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	影響該当	地域貢献度	影響該当	急車搬送人員 院の年間受入 院の年間受入	影響該当	器・組織提供の整備等の整備等の	影響該当	はなりでは、 との連携 との連携 関	影響該当	点数 入失習 かま 入失習 およ の 状 習 び び 況 の で 薬 ボ	影響該当	点数の変化	実習 受入 状 況	影響該当	療従事者への	影響該当	<u>च</u>	備考
大阪府	関西医科大学総合医療センター	801~900	当院は、大阪保から、「新型コロナウイルス感染症重点医療機関」の指定を受け、最大71年(重症42年、中等症29床)の病床を確保し、救命救急センタ院となった。また、令和3年11月15日付かったとが、同感染症ようで、有3年17月15日付かなり、同感染症がなった。また、令和3年17月15日付かなり、一次下のコレー大阪コロー大阪のコレー大阪のカーナーがでは、前体治療がなり、対策において実施が支援関、場合等に対策を機関、場合等に対策を機関、場合等に対策を機関、場合等に対策を接続して、診療機関、場合等に対するが、対象を行っていることが、患者を対して、診察を行っていることが、患者を対して、診察を行っていることが、患者を対して、診察を行っていることが、患者を対して、いることが、患者を対して、いることが、患者を対して、いることが、患者を対して、いることが、患者を対している。	0 0	教命教急センター(36床)にて 新型コロナ入院患者の受入れ を積極的に行っており、また、 同患者の受入れのため空床を 健保していたことにより、三次移 急等の一般救急重症患者の受 入れができなかった。 (対応方針) 令和4年の所管人口10万人あ たりの重篤患者数は、116人 で、新型コロナウイルス感染症 発生前の令和元年の169人よりコ を生がしているとを定る。 影響を受けていると考えられ、 新型コロナウイルス感染症発生 のプロナウイルス感染症発生 ある。		教命教急センター(36床)にて 新型コロナ入院患者の受入れ を積極的に行っており、また、 同患者の受入れのため空床を 億保していたことにより、三次教 急等の一般救急重症患者の受 入れができなかった。 (対応方針) 7.1の並びの対応とする。												0 0	新型コロナ感染拡大防止対策 の観点から、対外的な教育を控 えるべきと考え、院外研修は実 値できなかった。 対応方針) 医療従事者への教育ついて、 研型コロナウイルス感染症まん 延の影響により、令和4年に実 値できなかった事情を考慮し、 新型コロナウイルス感染症発生 新型コロナウイルス感染症発生 新型コロナウイルス感染症発生 新型コロナウイルス感染症			
大阪府	関西医科大学附属病院	201~300	令和4年4月に大阪府新型コロナウイルス感染症重点医療機 関に指定され、最大7床の重症 受入病床を確保。更に、令和4 年12月より9床の軽症中等症受 入病床を確保した。		コロナ流行時以外(4,5,6,10,11 月)では、救急のお断りが1,930 件中13.0%の251件に対し、コロ ナ流行時(1,2,3,7,8,9,12月)では、3,663件中32.3%の1,182件であった。当院はコロナ重症患者を受入だったので、コロナ流行時はにひが逼迫しており・重痛を引きなかった。そのため、年間を表すが前年比△86件の1,087件と大幅に減少した。 (対応方針)を発生前の今和元年の218人よりの重篤患者数が前年比△86件の1,087年と対の重篤患力リの重が表すが表すのから、対して、対応方針)を担めるといることから、新型コロナウイルス感染症まん延のコナウイルス感染症まん延のコナウイルス感染症まん延のコナウイルス感染症を発生する。そのその未の生のと同じ評価とする。	,	年間重篤患者数が前年比△86件の1,087件となり、大幅に減少。これにより、未確定ではありますが、地域である可能性があります。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。																
大阪府	近畿大学病院	201~300	令和2年4月より教急災害棟の1 フロアにて重症患者を対象に受け入れを開始。これまでに上記 の患者数の受け入れを行った。 新型コロナウイルス感染症が蔓延し、院内発生による病床制収 における当院の役割を重視した時においてもいるが発生した時においても一コール、脳マロール、以下、原の原とでは、大い、中で、原の原の高い受け入れは継続をしてきた。また教急の人員が減少する中においてもの様別を構成している。																0 0	新型コロナウイルス感染症の対策のため対面での研修等に制 展があり、新能酸との研修等に制 見があり、新能酸との研修は 上まっているため。 対応方針) 医療従事者への教育ついて、 が型コロナウイルス感染症まん 延の影響により、令和4年に実 値できなかった事情を考慮し、 野型コロナウイルス感染症 が製コロナウイルス感染症 前の令和元年充実段階評価と 同じ評価とする。			
大阪府	岸和田徳洲会 病院		救急搬送困難例に対して、一時 的に救急車を受け入れ待機さ せる「酸素ステーション」を設け ました。			O ×	酸素ステーション設置に伴って、救急外来スペースが減少し、総受入れ件数が減少。 発熱例も断らずに受け入れたので軽症例が増加した。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。																

													評価項目									
		Q1	Q2		7.1		7.2		25		28		32		37.1	T	37.2		40		41	
都道府県	医療機関名	入院数(患者実 数)	における役割やでは、一般では、一般である。	影響該当	年間に受け入れた重篤患者数	影響該当	地域質敵度	影響該当	教命教急セン 教命教急セン	影響該当	ための整備等 配死判定及び臓	影響該当	地域の関係機関	影響該当	剤接等 教急教 大実習の 受 で 変 で 変 で 変 で 変 で 変 で 変 で 変 が 変 で が が が が が が が が が が が が が	19万 松下 min All	院 実習 受入 状況 病	影響該当	医療従事者への	影響該当	点数の変化 の変化	備考
大阪府	大阪公立大 英学 部 附 属 病	101~200	当院は大学病院として、人工「口」 吸器管理を必要をする新型する が確保を大阪府の要は、1月1日 から5月17日は15床、5月18日 から5月17日は15床、5月18日 から5月17日は15床、5月18日 から5月17日は15床、5月18日 から7月31日は5床、5月18日 から5月17日は15床、5月18日 がら7月31日は5床、12月26日かから 12月25日は15店、12月26日かから 12月25日は15店、12月26日かから 12月25日は15店、12月26日から 12月25日は15店、12月26日から 12月25日は15店、12月26日から 12月25日は15店、12月26日から 12月25日は15店、12月26日から 12月26日から 12月26日から 12日26日か 12日26日か 12日26日か 12日26日か 12日26日か 12日26日か 12日26日か 12日26日か 12日26日か 12日26日か 1		年間重篤患者数が752人から636人に減少し、10万人あたり166人から138人、ポインドでは南6人から138人、ポイン院院・教育に6人から138人、ポイン院院・教育に自立けがあった。当時報の報告を表現のでは一次の表現を表現のでは一次の表現を表現のでは一次の表現を表現のでは一次の表現を表現のでは一次の表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表	O ×	7.1のとおり、コロナの影響下により重篤患者受入件数が減少しており、地域貢献度に影響が及ぶ可能性がある。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。	0 0	年間受け入れ物急車搬送メリートリートリートリートリートリートリートリートリートリートリートリートリートリ													
大阪府	地方独立行行 地方独立行 大大大機構 総性期 総情期 と療 センター	ī ₹ 1001~	・大阪コロナ重症センターの運営を行い、500人を超える重症患者を受け入れた。・フェーズ1より重症病床を30床確保。また、フェーズ5の感染ピーク時には重症病床最大48床確保した。			O ×	令和3年度まで地域貢献度については2点の配点があり所管 地域人口当たり当該施設に搬送された重篤患者数の実績も令和3年度より増加しているが、仮に全国総人口当たり全国重篤患者数が例年より増加むたら、新型コロナ重症配点基準(0.5以上)を満たさななるため。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。											0 0	新型コロナウイルス感染対策として地方独立行政法人大阪府 立病院機構が実施する事業に 立病院機構が実施する事業に おいて、外部からセンターに参考 集するするよことが実施不可と なっていたため、対外的に教念 できるでしたため、対外的に教念 できるでしたため、対外的に教念 に関かる (対応方針) 医療従事者への教育ついて、 新型コロナウイルス感染症まで 施できなかった。 新型コロナウイルス感染症まで 施できなかった事情を考慮と 新型コロナウイルス感染症 施できなかった事情を考慮発生 施できなかった事情を考慮発生 前の令和元年充実段階評価と			

												評価項目									
		Q1 入新	Q2 に新		7.1	\vdash	7.2	25 救病タ _物	Т	28	\vdash	32 地	+	37.1 剤管教	+	37.2 院教	+	40 医	Н	41 災	
都道府県	医療機関名	数)とはおります。	貢献度等 貢献度等	影響該当	(来院時) (別 ・・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	影響該当	地域貢献度	急車搬送人員の変え	影響該当		影響該当	との連携域の関係機関	影響該当	点数の 投実急 教	影響該当	実習 受入 状況 病	影響該当	療従事者への	影響該当	害に関する教	備考
兵庫県	神戸大学医学部附属病院	301~400	令和3年4月1日より兵庫県より 重点医療機関として指定を受け ており、令和4年度も長庫県の 入院医療体制における入院健療 保病床を感染状況フェーズにあ わせて確保を整染状況フェーズにあ わせて確保支護・また、神 戸市からの要請に基づき、新型 対応や陽性妊婦の分娩 対応や陽性妊婦の分娩 れ体制の強化を行った。	0 ×	発熱を伴う患者と受け入れる医療機関が不足れ、当院に対した対したも多のの、感染対策のだめカルPPEを着用するなど、医療従いかり、ECUでも大きな負担がたかり、ECUではしていた。また、県内の感染状況フェーズに応じて、互重を強受したことから、警があった。要があり、自然を強受したことがら、要があり、自然を強受した。また、明内のを強力に多大な影響があったりの重点を強受したことがら、響があったりの重点を強受したことがら、響があったりの重点を強受したことがら、影響のも用したとない。対応方針り所管を強し、19人と、対応方針り所管を強し、19人と、対応方針り所であれている。大きな影響があったが、第型コーナウイルス。大りのでは、対していては、新型コーナウイルスの表達を発生が変があると考えられ、当該評価でもれていては、新型コーナウイルスにより、対していては、新型コーナウイルスにより、対していては、対していては、対していては、対していては、対していては、対していていては、対していていては、対していていていていていていていていていていていていていていていていていていてい			特に発熱患者への対応は、感 染対策のためフルPPEを着用 するなど医療従事者に大きな負 担がかり、マンパワー不足が 大き(不足したことから、搬送人 数にも影響した。 (対応方) 令和4年の所管人口10万人あ たりの救急搬送要け入れ人員 数は、487人と、新型コーテクイルス感染症条生前の令和元年と の550人よりも減少していること から、新型コーナウイルス感染 症まん延の影響を受けている感染 症まん延の影響を受けている感染 症まん延の影響を受けている感染 症まん近の影響を受けている感染 症まん近の影響を受けている感染 症まん近の影響を受けている感染 に変発生前の令和元年と同じ変 化しない。)							0 >	この項目については、今回提出 分に誤りがありました。「372 教急教命士の病院実習受入状況」を、このたび「3」人としておりましたが、消防局からの実習 受け入れが計算から外れておりました。正確には、「18」人です。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。					
兵庫県	兵庫医科大学	501~600	当院の教命教急センターは阪神医療圏において、特に以下で2つの役割を果たすことででういた。 ①重症COVID-19患者に特化した教命教念を生立のでは10世紀ので10世紀ので	0 0	当教命教急センターのEICUは 阪神医療圏における協善の受 上、重症COVID-19患外の重 れに特化し、それ以外の重ねる 者は見立西。重症COVID-19患 者の治療は人工呼吸器管理の 為に長期に渡るではひいとがほど、 を力をがします。 を力をがします。 を力をがします。 でまなった。 その様な中でまなった。 を力をりた。 でまなった。 でまなった。 でまなった。 でまなった。 でまなった。 でまなった。 でまなった。 でまなった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 であった。 をうかり 令和4年の178人と あったりのであることがほき。 をうかりのよると をういのにのまる。 にがしていると がしている。 新型コンで をもの をもの がりているとを を受けているとを を受けているとを を受けているとを を受けているとを を受けているとを を受けているとを を受けていると をできていると を受けていると をできている をできていると をできていると をできていると をできていると をできていると をできている をできで	0 ×	地域の重症COVID-19患者の 受入れが当方の役割であり、その役割は充分に果たせた。第2 政からは、当教命教急に施設に 派遣し、その現場で重症を限開 し、それにより、転院患者数を 切割することが出来た。地域の 類場で医療貢献にた為に転院 数が減少したが、その分・直接 機送患者を多く受入れることが 出来るようになった。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。	阪神医療圏での協議の上、重 症COVID-19患者に特化した受 入れを行安入機とは例年より も救急車で入機送した。非COVID-19患者の転院受 患者の転院受入れも行ひでは いたものの、重症のVID-19患者は人工呼吸器管理のため治 症が多くなかなかることが多くのでは は大のVID-19患者の重なの重な (対応方針) 令和4年の所管人口10万人 あたりの教急機送受け入れ入口 の対な力は、146人であり、新型コウイルス感染症をなら、新型コウイルス感染症を発生前の令和元年のでいる。 と考えられ、新型コウイルス。 一般である。 が成立を表生である。 が成立を表生である。 が成立を表生である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。 である。													

				評価項目																			
都道府県	医療機関名	Q1 入院数 (患者実数)	サコ	影響該当	7.1 年間 (来院時) (来院時) (別)	影響該当	7.2 地 域 資 献 度	影響該当	25 救院の年間受入 教命教急セン	影響該当	28 た器・経 を が の 整 備 等 の 整 備 等 の を 機 提 供 の の を の を の を の を の を の を の を の を の を	影響該当	32 地域の関係機関	影響該当	37.1 剤管教 投実習教 状実習お命 況習びず 受薬 様	影響該当	点数の変化	37.2 院教 実習 要教 の 会 大 状 の 況 現 病	影響該当	40 医療 教育 育者 の	影響該当	41 災害 に 育 す る 教	備考
島根県	島根大学医学部附属病院	101~200	県の重症患者受け入れ機関として機能した。島根県では重症患者をけ入れたさる施設は当施設を含け入れたさる施設は全中から1施設増えることとなった)しかなく、全県の重症をおおむねみた。また波のピーク時には、軽症から中等症も含めてあらゆる症例をER経由で受けることとなった。							0 0	コロナ福の影響で脳死判定シミュレーションが中止となっており、これを実施することが出来なかった。 (対応方針) 脳死判定のシミュレーション等について、新型コロナウイルス感染症まん延の影響により、令和4年に実施できなかった事情を考慮し、新型コロナウイルス感染症発生前の令和元年充実段階評価と同じ評価とする。					0	×	コロナ禍の影響で院外の教命 士の受け入れを一時停止せざ るを得なかった。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。	O ×	コロナ禍の影響もあり、学生が施設見学に来ることが出来なかったことは、初期研修医の入場に大き、警里した。のため、当院において救急研修する研修医が減少し、24単位の研修をクリアすることが出来なかった。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。			
岡山県	川崎医科大学附属病院	1~100	県から重点医療機関としての指定を受けており、新型コロナウイルス陽性患者を受け入れる為の病床の確保中等症20床、特に県南西部の基幹病院として場合の表している。家務を行い、特に県南西部の基幹病院としては、財政を発しては、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが、大きなが																0 0	対外的な教育として、新型コロナ流行前の2019年度までは ICLSコースについて外部の医療従事者を受け入れて実施していた(評価2点)が、新型コロナ流行後は感染拡大防止の利ず、院内職員のみを対象に実施している(評価1点)。 (対応方針) 医療従事者への教育ついて、新型コロナウイルス感染症まん 延の影響により、令和4年に実施できなかった事情を考慮し、禁型コロナウイルス感染症を表し、禁型・アイルの表に表し、管施できなかった事情を考慮し、禁			
岡山県	岡山赤十字病院	101~200	新型コロナウイルス感染症重点 医療機関に指定され、岡山県 調整本部ならびに岡山市保健 所と緊密に連携を取り、主に中 等症患者、重症患者の受け入 れに従事した。原則として即け入 れ要請を配っる限り、受け入 れ要請を応需した。 加えて、教命和急センター 救急 外来を受診した外来発患者 及び紹介患者の診療において は、別個に人員配置を行い、常 時柔軟に対応できる体制をとっ た。	0 0	新型コロナの影響により、患者ないの対応や医療スタッフの感染によるマンパワー不足、そのための入院病床の削減を強いられ、結果として教急車応需数・応需率の低下、ひいては受入重篤患者数の減少が生じた。 (対応方針)令和4年の所着数は、153 広・分をりの重篤患コロナウイルスを発生前の令和元年の236人よりも減少していると考えを超の影響を受けていると考えを近の影響を受けていると考えをがある。 新型コロナウイルス感染を定めた。 が、新型コロナウイルス感染症を発生前の令和元年と同じ評価とする。																		

			評価項目 7.1 7.2 25 28 32 37.1 37.2 40 41																	
		Q1 Q2 入新 に新			7.2	444	粉在力		28 た器脳た・死		地		剤管救		37.2 院教		医		41 災 害	
都道府県	医療機関名	院数 (患数) (患者患	影響の	年間に受け入れ(来院時)(別	影響があった。	地域 響談	点 急院 事のを教 の 搬年を教	影響の	~~ 幺月 半川	影響談の	との関係機 機	影響該	投実急 入与習救 状実お命	影響家の	実急 習救 受命	影響談の方	療 殺 教 育 者	影響。	きに育関	備考
		ご患ナ 次役ナ 者患 や療	当化	- ○ 者 - ○ 者 - ○ 数 別	当化	度	変と、一人受すると、人受すると、自入る	当化	の整備等 税 総提供の 臓	該 変 化	是係 携機 関	当化	況習よ士 のびの 受薬挿	当化	一受 分士 状の 況病	当化	『者 へ の	当化	す る 教	7-7
広島県	独立立病院機力を持ちます。	当院は、県の「診療・検査医療機関」として地域診療の中核な対応を行っており、加機関、協力医療機関は力医療機関が指定されていることから、一フェーズ時で15床、緊急アニーズ時で25床のコロナ病床をな悪し、人工呼吸管理が必要である。大力を行っておりますなお、対象機関である令和4月から12月までの時間が1月が19月によるのでは、近べ4346人の受け入れでつており、地域の新型コロウイルス感染を設定していると考えております。	的重 こと・保 ・						V 3%		į pe				ov in			0 0	災害に関する教育として、院内 災害訓練を令和4年2月3日に実施する計画としていたが、令和4年1月からの第6波流行期に突力感染拡充行第にたとにより、市場のコロナ感染拡大の影加に関連を発生のを発生の増加に対したことで開催直前に延期としました。その後も感染拡大や院内感染対策を必縮小してが、状況最終的な判断としていたが、が、最終がな判断とした。今年度は前年度の中止を決定しました。今年度は前年度の中止を決定しました。今年度は前年度の中止を決定しました。今年度は前年度の中止を決定しました。今年度は前年度の中止炎語が表現が表現を表現が表現を表現しました。(対応方針)災害に関する教育のして、新型コレナウイルス感染症まん延の影響により、令和4年に実施できなかった事情を考慮し、新型コレナウイルス感染症を発している。今年の一年充実段階評価と同じ評価とする。	添付資料あり
山口県	独立行政法人構 国立病院機 関門 医療セン ター	新型コロナウイルス感染症にかる地域の重点医療機関とて、軽症~中等症までの患者幅広く受け入れた。また、下関する方の市内3病院取り決めた「コロナ輪番」病院して、、輪番目は、各部門と影整のラえ屋夜を問わず患者の入院受け入れを行った。	を で と															0 0	新型コロナウイルス感染症にかかる地域の重点医療機関として 開性患者の入院受入れを行う 中、院内クラスターが頻繁した ことにより、スタップ等への感染 拡大を危惧し、令和4年中に災 書訓練を行うことができなかっ た。 なお、院内クラスターの収束に よって、令和5年3月に災害訓練を実施している。 (対応方針) 災害に関する教育ついて、新型 コロナウイルス感染症まん延の 影響により、令和4年に実施で さなかった事情を考慮し、新型 コロナウイルス感染症を発生前の 令和元年充実段階評価と同じ 評価とする。	
山口県	地方独立「行政立行政立行政立行政立局院機構 内県立総合医療センター	県内唯一の第一種感染症指 医療機関として、新型コロナイルス感染症(COVID-19)感者の妊婦・乳幼児・基礎疾患 持つ患者の受入れや、重度 急性呼吸不全患者へのECM 治療を実施するなど、中心的 役割を果たしている。また、勇 熱や呼吸不全などの新型コナナウイルス感染症(COVID-19 の疑い患者発生時に、他の関 療機関の対応が困難な場合 は、当センターで対応した。	7 を を)) to () !!!							ラ樂やが(3地に感和を感	型コロナウイルス感染症のクスター発生の影響により、感拡大防止の観点から勉強会症例検討会等を開催することできなかった。 対応方針)、 対応方針、 対応がして、 新型コロナウイルス 発症に、新型コロナウイルス 発症発生前の令和元年充実 関語価と同じ評価とする。									

				評価項目 7.1 7.2 25 28 32 37.1 37.2 40 41																		
都道府県	医療機関名	Q1 入院数(患者実数)	お型 貢 計 コ	影響該当	へた間 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	影響該当	7.2 地 域 賣 献 度	影響該当	教病タ教 急院のを 車 2	影響該当	た・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	影響該当	32 地域の関係機関 機関	影響該当	剤管教 投実急 放 入与習教 は 状実お命	影響該当	37.2 院教 実 数 の の 入士 化 況 の 決 決 の 次 決 の 次 決 大 大 の の で 入 大 の の 、 入 大 の の た 入 大 の の た 入 大 の の た 入 大 大 の ん 、 入 大 大 の ん 、 入 大 大 の た 入 大 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	影響該当	医 療 数従	該业	41 災害 に の 育関 する 教	備考
高知県	高知赤十字系院	^为 201~300	重点医療機関として病床を整係 し、新型コロナ患者の入院の受け入れを行った。	前:																0	全職員を対象としたBCPに基づく院内災害対策訓練およびそれに伴う研修について、年2回(令和4年2月・令和5年3月)の実施計画としていたが、新型コロナ感染症拡大の状況および院内の警戒レベルが高いことから中止とした。なお、令和5年2月に、感染対策を講じて当該訓練を実施した。 (対応方針)災害に関する教育ついて、新型コロナウイルス感染症まん延の影響により、令和4年に実施できなかった事情を追し、新型コロナウイルス感染症を見し、野価とする。	
佐賀県	佐賀県医療ンター好生館		佐賀県における重点医療機関の指定を受けており、外来診療、入院診療の役割のを担い、明下の感染発生状況のフェーズに応じ、最大84床まで受け入れ病床を拡大した。また、県内が所しかない3次の教命教急センターとして、特に夜間休日に多く発生した教急搬送困難事事るの県内全域からの受け入れに対応した。							0 0	脳死判定シミュレーションについて、実施することで職員間の新型コーナウイルスを験をリスクが高まること及び新型ココナウイルスに関する診療など対応業務過多となっていたもめ、開催を断念してきた。今後は、艦み実施予定である。 (対応方針) 脳死判定のシミュレーション等について、新型コロナウイルス 感染症まん延の影響により、令情を考慮し、新型コロナウイルス 感染症発生前の令和元年充実 段階評価と同じ評価とする。											
熊本県	独立行政法と国立病院機制	第 201~200	熊本県では主に県内3施設の 教命教急センターで三次重症 患者等の教急患者の受け入れ を行っているが、当院はその3 施設の中の1つとして重症の新 り型コロナ患者を受け入れる重点 医療機関となっている。また感 医療機関には、フェーズに応じ て重症患者の受け入れ病床の 増床、一部中等症患者等の受 け入れも行っている。	i		O ×	当院はICUにて重症のコロナ患者を受け入れており、度重なる感染拡大時には患者受け入れ やクラスター発生時の対応のため、教命病様の一部を空床とれらに伴う病床の逼迫により、教息車及び入院の受け入れを制限せざるをえない状況が発生したため。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。															
沖縄県	沖縄県立中部病院	^{\$\$} 801∼900	当院は新型コロナウイルス感発症を担う、対応重点医療機関であり、急性期病院としての機能役割である。		当院病院職員の感染・濃厚接触等の増加、院内クラスター等に伴い、マンパワー不足による医療体制のひら迫、集中治験した。 (対応方針)令和4年の所管人口10万人あたりの重篤患者数は、223人と、新型ココナナウイルス感染症まん延の影響を強少していることから、新型ション学を強受けていると考えられ、新型コロナウイルス感染症まん延の影響を強受けていると考えられ、新型コロナウイルス感染症まん更に変勢なり、	O ×	新型コロナウイルス感染症の拡大とともに、教急センターを受診する患者急激に増加したことから、一次(軽症中等症)教急外来を停止した。沖縄県医療非常事態宣言(令和4年7月21日~9月29日(対応方針)満点のため点数の変化なし。		新型コロナウイルス感染症の拡大とともに、教急センターを受診する患者急激に増加したことから、一次(軽症中等症)教急 来を停止した。沖縄県医療非常事態宣言(令和4年7月21日~9月29日(対応方針)満点のため点数の変化なし。	0 ×	当院病院職員の感染・濃厚接 触等の増加、院内クラスター等 に伴い、マンパワー不足による 医療体制のひっ迫、満床状療を 要する患者受け入れを制限した。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。	O ×	新型コロナウイルス感染症の拡大とともに、教急センターを受診する患者急激に増加したことから、一次(軽症中等症)教急 車受け入れと紹介患者制限と一次教急外来とを停止した。沖縄県医療非常事態宣言(令和4年7月21日~9月29日)(対応方針)満点のため点数の変化なし。	0 ×	当院病院職員の感染・濃厚接触等の増加院内クラスター等に 住い、マンパワー不足による医療体制のひっ迫、満床状態が続いたことから、医学生・看護師コメディカル等全ての臨床研修実習受け入れを停止した。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。	0	当院病院職員の感染・濃厚接 競等の増加院内ラスター等に 伴い、マンパワー不足による医療体制のひっ追、満床状態が 終いたことから、医学生・看護 節・コメディカル等全ての臨床 研修実習受け入れを停止した。 (対応方針) 満点のため点数の変化なし。	0 0	当院病院職員の感染・濃厚接触等の増加院内クラスター等に供い、マンパワー不足による医療体制のひつ迫、満床状態が続いたことから、医学生・看護師・コメデカル等全での臨床研修実習受け入れを停止した。(対応方針) 医療従事者への教育ついて、新型コサーウイルス感染症まん型の影響により、令和4年に実施できなかった事情を考慮し、新型コロナウイルス感染症免生前の令和元年充実段階評価と同じ評価とする。	0	当院病院職員の感染・濃厚接触等の増加、院内クラスター等に伴い、マンパワー不足による医療体制のひつ迫が続いたことから、医療体制を登えるため研修会などを停止せざる得なかった。 (対応方針)満点のため点数の変化なし。	

				評価項目																		
		Q1	Q2	7.1 7.2					25 28				32		37.1		37.2		40	41		
都道府	医療機関名	入院数(患者実	における役割やにおける役割や	影響該当	年間に受け入れ (来院時) (別 表)	影響該当	地域質献度	影響該当	救急車搬送人員救命救急セン救命救急を一を設置する	影響該当	ための整備等 器・組織提供の 整備等	影響該当	地域の関係機関	影響該当	剤投与実習の要 教急救命士の乗 なの要 が表現の要	影響該当	院実習受入状況 教命士の病	影響該当	医療従事者への	影響該当	災害に関する教	備考
沖縄県	浦添総合病院	301~400	デルタ株の流行までは重症患者が多く発生しており、ECMOを含めての重症呼吸な不全患者の実に重なを置いて対応する体制を取った。離島かいても当院で可能な関リ受け入れてきた。オミのコン株の各行後は新型コロナ感染の症状よりも、もともとの基礎疾患者が増入てきたり、そういった集中治療に重ないであり、そういった集中治療に重ないで対応した。																	0 0	新型コロナウイルス感染症院内 クラスター発生等により院内災 害訓練及び研修の開催が困難 な状況であったため。なお、都 道府県又は地域での災害訓練 へは参加している。 (対応方針) 災害に関する教育ついて、新型 コロナウイルス感染症まん延の 影響により、令和4年に実施で きなかった事情を考慮し、新型 コロナウイルス感染症発生前の 令和元年充実段階評価と同じ 評価とする。	